

令和4年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」
アソシエイト校における取組について

1. アソシエイト校について

類型名	地域魅力型 (C型)
学校名	東京都立五日市高等学校
管理機関名	東京都教育委員会

2. 令和4年度における取組について、該当する欄に○を記入してください。

	参画した	参画していない
2023/3/17 開催 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」 成果検証報告会 (視聴のみ参画も可)		○
2023/1/17 開催 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット (視聴のみ参画も可)		○
【プロフェッショナル型のみ回答】 2022/10/15、16 開催 全国産業教育フェア青森大会		

3. 問2以外で実施した地域との協働による学習活動等の取組について、以下の回答欄に記入してください。また、記載いただいた内容について、参考となる資料があれば提出してください。(様式任意)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域探究コンソーシアム協議会を年3回開催 ・ 五高フェス開催 ・ 探究フィールドワークの実施 ・ あきる野の匠連携授業の実施 <p>その他については【別添資料】を参照</p>
--

4. 管理機関担当者

担当課	東京都教育庁指導部 高等学校教育指導課	TEL	03-5320-6845
氏名	天野 大輔	FAX	03-5388-1733
職名	統括指導主事	E-mail	S9000023@section.metro.tokyo.jp

令和4年度 東京都立五日市高等学校
第3回 地域探究コンソーシアム協議会資料

日時 令和5年 3月20日 午後0時15分から
場所 東京都立五日市高等学校 3階 第6講義室

<令和4年度 探究に係る指定事業>

- 文部科学省：地域との協働による高等学校教育改革推進事業・アソシエイト校
- 都教育委員会：地域探究推進校
- 三菱みらい育成財団助成校

今年度の活動まとめ

■ 全学年(総合的な探究の時間)

<1 学年>

時期	計画内容	レビュー
4～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス 「探究とは何か」 ・PCスキル (パワーポイント等)の基礎基本学習 ・探究するための基礎知識、調査方法と進め方の整理 ・地域でのフィールドワークの実施・振り返り① 	<p>・「地域を知る」ことを目標に、5月から11月にかけて全4回にわたって地域の事業所に協力を得て地域探究フィールドワークを実施した。(①地元自治会所有の森林での林業体験、②大久野保育園・天正寺、③秋川国際マス釣場、④秋川から城山テラスでの自然体験)</p> <p>経験した内容に関しては、まとめ学習にてポートフォリオで記録するとともに、クラス横断して発表する場面を作り各自が発表した。この一連の流れを繰り返し行うことで生徒は発表することに慣れてきた。</p>
7～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのフィールドワークの実施・振り返り②③ 	<p>商工会や自治体と連携して講演会を実施し、地域の現状を把握した。</p>
10～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのフィールドワークの実施と振り返り④ ・地域企業および自治体の方からの情報収集 ・学識経験者や地域の人意見も踏まえて魅力の伝え方、課題の解決方法について検討 	<p>・地域の良さを「発信」するための着眼点を養うこと(次年度探究の導入)を目的に、次年度以降の探究活動の導入的授業を実施した。10月には、「横浜ツアープラン・プロジェクト」と称して、理想の横浜ツアープランを構築して実際に現地を回り、それをもとに発表を行った。パワーポイントを作成して発表した。各自の興味ある内容で進めていくことで楽しく学習できるよう心掛けた。</p>
1～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化に向けた提案や仮説を検討・整理 ・探究活動成果発表会 	<p>トヨタ S&D のチョイソコ事業についての講演会を実施し、地域が抱える課題について企業側とともに考え、課題の発見、課題解決のためのアイデアの提案などについて活動した。</p> <p>3月に探究活動成果発表会を実施に向けて準備</p>

< 2 学年 >

時期	計画内容	レビュー
4～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス「探究の進め方」 ・地域活性化に向けた提案や仮説を深める、検討 ・フィールドワークにより地域貢献や地域活性化に向けた情報収集 	<p>2 学年では、「地域を深く知る」を主軸とし、地域への理解を深めるために、主に3つのことに取り組んだ。</p> <p>①日本における他地域（SDGs みらい都市に選ばれている鎌倉や日本の伝統文化を知ることができる浅草など）へのフィールドワークを行い、五日市との比較を通して、五日市の魅力と課題を分析・再検討した。</p>
7～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化に向け PR 動画作成 ・地域の良さの発信、課題解決に向けた仮説の検証 	<p>②地域の方々、特に五日市商店街の方々へのインタビューを通して、地域の魅力や課題、地域のニーズを把握した。</p>
10～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・検証結果のまとめおよび再検討、海外との交流会に向けた準備 ・地域むけイベントの計画と実施 	<p>③①・②を通して知った知見をもとに、五日市の魅力を感じ、地域の課題を解決するための高校生ならではの SDGs 修学旅行プランを作成した。</p> <p>※③では、JTB 主催の「観光甲子園」にクラスの代表チームが出場し、全国 500 チームのなかから 1 チームが準決勝に出場した。また、「SDGs みらい甲子園」の一次審査を通過し、現在、決勝大会に向けて準備をしている。ここで深めた知見を来年度に実行し、地域に還元していく。</p>
1～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化に向けた提案や仮説について ・地域や行政との意見交換 ・探究活動成果発表会と2年間のまとめ 	<p>3月に探究活動成果発表会を実施に向けて準備</p>

< 3 学年 >

時期	計画内容	レビュー
4～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス「提案の実現に向けて」 ・地域活性化に向けた提案や仮説の再検討 ・地域や行政、地元企業の方と地域貢献や地域活性化に向けた活動① 	<p>コロナ禍で、2年生までの2年間計画が実施できなかったため、年度当初から改めて「地域を知る」というところから始めた。その取組の中で、地域の魅力を感じるフィールドワークを計画し、実際に魅力ある場所を訪れたり、地域の商店街と連携して「ヨルイチ」という夏祭りに向けて各店舗に取材をしてヨルイチマップを作成したり、地域との交流の場面を作ることができた。(9月まで)</p>
7～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や行政、地元企業の方と地域貢献や地域活性化に向けた活動② 	<p>2学期は、アウトドアコースとマネジメントコースの生徒を中心として今年度新たに企画した、地域との交流イベント「五高フェス」に向けて、「地域と一緒にSDGs（もったいない・防災）を考える」をテーマに取り組んだ。特にアップサイクルを視点でコットンボール、ランプシェード等の作成を行うことができた。イベントは大成功し、生徒の「もったいない」という意識も上がった。</p>
10～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動成果発表会と3年間のまとめ 	
1月		<p>探究活動成果発表会を実施し、各クラスでチームごとの活動の成果を発表した。</p>

■ アウトドア・マネジメントコース

<2年 アウトドアコース>

- ・ アウトドアコースでは、本校周辺の地域資源をアウトドア関連や観光資源の視点から、地域の魅力を知り、体験学習を通して、地域貢献・地域活性化に向けた提言が行えるような計画を作成。具体的には「ボルダリング」「林業実習」「キャンプ及び野外活動実習」「上級救命講習」「登山及びトレイルランニング」「地域イベントの企画・運営及び参加」「地域自然体験活動（リバートレッキング）」「地域観光資源体験活動（南沢アジサイ山プロジェクト）」「コース探究活動及び発表会」を計画。年間を通して全ての計画を実施することができた。
- ・ 本校周辺の地域資源を活用した体験学習を多く取り入れたことで、本校周辺の魅力を生徒自ら再発見し、地域への誇りや愛着が増すことができた。

<3年 アウトドアコース>

- ・ アウトドアコースでは、この五日市の恵まれた自然環境と地域連携及び地域協働をかけ合わせて取り組んだ。
- ・ 体験活動として「ボルダリング（ロッククライミング及びリードクライミング含む）」「トレイルランニング」「リバートレッキング」「林業実習」「キャンプ及び野外活動実習」「登山」を実施し、そこで得た知識や新しい視点を活かした「アウトドア探究活動」「地域交流会」「地域活性化への提言及び実行」「イベントの企画・運営」などの地域に根差した活動に取り組んだ。
- ・ 初開催のイベント（五高フェス）では、半年前から地域の大人たちと議論や計画を重ねてきた。当日は、「キッチンカー販売」「焚き火体験」「防災グッズ展示・制作体験」「高校生と遊ぼう（屋台など）」「ボルダリング交流会」を運営し、多くの外部の方を笑顔にすることができた。

<2年 マネジメントコース>

- ・ コロナの影響があったが、フィールドワークを実施できた。
- ・ 探究の基礎的な流れがうまく構築できなかった。
- ・ 高大連携授業の1つが当初の予定とずれてしまい、結果として実施できなかった。

<3年 マネジメントコース>

- ・ 昨年度実現できなかった「あきる野の匠」との連携授業を行う中で、地元で竹を素材として地域を盛り上げようとする匠と出会い、竹灯りの取組を始めた。学校近くのお寺にある放置竹林の整備の一環で、切り出した竹の有効活用という位置付けでも行うことができた。竹灯りを作り上げるために、匠の技術指導や道具の整備への助言を得て、生徒がワークショップを行えるまでに成長した。
- ・ 11月に地域と交流するイベントである五高フェスを新たに作り上げた。昨年度から取り組んでいる多摩産材を活用した木工細工と、今年度から取り組んでいる竹灯りを中心とした竹細工のワークショップを企画し開催することができた。
- ・ 当日は利用者も途切れることなく、生徒達にとっても満足度が高い取組となった。

今年度のうまくいった点と課題について

【うまくいった点】

<全学年 共通>

- ・ 発表の機会を複数回設けたことにより、パワーポイントによる発表資料の作成など、ICT 機器活用スキルが定着した。また生徒に対し、人前で発表することへの慣れを感じさせることができた。

<1・2学年 共通>

- ・ 探究フィールドワークを中心とした体験的学習を多く取り入れることで、地域とのつながりを持つとともに、生徒自身が生き生きと楽しみながら地域の魅力について「知る」ことができた。
- ・ 地域探究という枠組みの中でも横浜ツアー、鎌倉ツアー、浅草ツアー、人気ドラマのロケ地等、生徒の興味・関心に寄り添った題材を提示することで、より良い授業内容を展開することができた。

<1学年>

- ・ 主担当に任せるのではなく、担当ごとに役割を分担し各自の業務を軽減することができた。

<2学年>

- ・ 「観光甲子園」に出場するという目標を掲げることで、年間を通して、「SDGs 修学旅行プラン作成」というゴールに向けて準備ができた。
- ・ 探究講演会・ワークショップを年間6回程度行い、シンガー、フォトグラファー、歴史の専門家、観光学の専門家等の多種多様な方に授業に関わって頂き、知見を深めることができた。生徒も積極的に質問するなど、外部からの刺激を多く受けて、成長することができた。地域の方々にインタビューする経験を通じて、視野を広げたり、大人に果敢に意見を伝えたり、主体的に話をする生徒が増えた。

<3学年>

- ・ 地域と連携した取組を行い、「ヨルイチ」の関わりで新たな繋がりを作ることができた。そしてそのつながりを、来年度以降も継続していく礎にすることができた。
- ・ 五高フェスに展示することを目標に9講座のアップサイクルの取組を立ち上げ、模索しながらではあったが実施することができ、講座別活動では今までにない製品や商品を生み出し展示するなど充実できた。

<2年 アウトドアコース>

- ・ 地域で活躍する外部講師を多く活用することで、「地域の良さ」や「視点の広げ方」、「郷土愛」等の普段の授業の中では学べないことを学ぶことができた。「ボルダリング」では学んだ知識を地域の保育園・児童・生徒に還元するイベントを開催し、120名を超える参加者に喜んでもらうとともに、新たな価値を生み出すことができた。
- ・ 「登山及びトレイルランニング」では、基本的な技術や山の危険性を学び、その中でどのように山を楽しむのかを経験したり、その山の歴史や登山道について考えたりすることができた。このような体験学習を通じて、地域課題等を知り、各自の興味や関心のあることをかけあわせ、経験した内容や魅力を第三者に対してどう発信し伝えることができるかなど、地域貢献・地域活性化に向けた提言を考え発表することができた。

<3年 アウトドアコース>

- ・ 体験活動を自己満足で終わることなく、多角的に捉え発信に向けて考えることができた。
- ・ 地域を盛り上げるにはまた楽しんでもらえるにはどうすればよいのかを意識した取組として、イベント（五高フェス）を初開催することができた。また多くの地元民が来校し、生徒と交わる機会ができた。
- ・ 自己の興味や関心のある事と地域を掛け合わせることで、無理なく地域貢献・活性化の考えを膨らませることができた。

<2年 マネジメントコース>

- ・ フィールドワークを実施することで、生徒の地域に対する認識が深くなった。
- ・ 探究の成果発表会を実施することで、生徒の努力が互いに目に見える形になった。

<3年 マネジメントコース>

- ・ マネジメントが目指す「地域の資源を生かした起業」という視点で竹灯り制作を実施できた。
- ・ あきる野の匠を始め地域の経営者など、多くの地域の方と連携した授業を実施できた。
- ・ マネジメントコースの取組を通して、探究活動の啓発や理解が、内部・外部共にでき、生徒が満足する授業を一定程度提供できた。

【課題点】

今年度の課題としては、大きく次の「教員にかかる負担の軽減」・「地域探究と進路探究等のバランスのよい設定」・事前準備と適切な課題設定」・「3年間の見通しを持った計画の策定」の4点が挙げられます。

〔教員にかかる負担の軽減〕

- ・ 探究を計画する主担当教員が持ち時数の関係で授業に入れないことから、各担当教員に十分な情報を伝えていくことが課題である。毎週行う「探究授業打合せ」が教員には負担である。共通理解を図る時間の確保を工夫する必要がある（全学年）
- ・ 外部講師との打ち合わせ、調整、地域の方々との連携などで主担当が多くの時間を要した。（2学年）
- ・ 年間スケジュールと変更する点が多くなり、講座別活動を実施する教員の負担が大きかった。TAの充実など外部人材を活用する手立てが必要である。（3学年）
- ・ 体験活動を実施するための計画の立案や外部講師との打合せ等、様々な準備と多くの時間を費やし、担当者の負担が大きいため、工夫する必要がある。（2年 アウトドアコース）
- ・ 感染症の状況（増減）や天候によって年間授業計画の内容変更をせざるを得ない場合に、外部関係者や担当者の負担が大きい。（3年 アウトドアコース）（2年 マネジメントコース）
- ・ 教員2名体制を基本としているが、負担を軽減するためにはコーディネーターも含めて人材の確保を行い指導の充実に繋げること。（3年 マネジメントコース）

〔地域探究と進路探究等のバランスのよい設定〕

- ・ 総合的な探究の時間の授業数が1コマであったため、進路探究が十分にできなかった。生徒の力を総合的に上げるためには地域探究だけでなく進路探究等の時間の確保が必要である。（2学年）

〔事前準備と適切な課題設定〕

- ・ 1年次のテーマは「地域を知る」ことであった。その分、発表内容が自身の知ったことや調べたことの紹介程度にとどまっている。次年度はより生徒の思考や創造性を引き出す授業内容としていきたい。（1学年）
- ・ 年間を通じて、テーマとしては一貫していたが、生徒の状況等に応じて発表形式を変更したため、生徒が混乱する場面があった。事前準備を整えておく必要がある。（2学年）
- ・ 地域を舞台にしたSDGs 修学旅行プランは、本校生徒には難易度が高い内容であった。生徒が地域の課題を「自分ごと」にするのはなかなか難しいことであることを感じた。生徒がより「自分ごと」にして主体的に関われる課題設定が必要である。（2学年）
- ・ 学期ごとに大きなテーマに取り組んだが、年間を通して1つのテーマの方が動きやすかった。（3学年）
- ・ 竹灯り等新たな取組を始める際には、必要な道具や留意点など効率的に準備を整えるため、専門家や先進校視察により適切に助言を得ることが重要である。それらを見越して予算等を用意する必要がある。（3年 マネジメントコース）

〔3年間の見通しを持った計画の策定〕

- ・ 生徒の探究活動の意欲や能力が、過去の積み重ねにおいて課題を感じる点が多く、授業計画がやりきれないことも多かった。3年間を見通した計画を立てる必要がある。（3学年）

- ・ 年間授業計画の再構築（修正）が必要である。（3年 アウトドアコース）
- ・ 年々地域とのつながりが増え、地域で活躍している方々を紹介していただき、たくさんの体験学習をおこなうことができてきた反面、限られた年間の授業日の中で内容を精査し、教育効果が高くなるような計画を立案する必要がある。（2年 アウトドアコース）

〔その他〕

- ・ コロナ禍でもあり当初の計画が予定通りに進まず、継続性の観点からも実施内容を振り返り次年度以降に繋げる振り返りが必要である。（3年 マネジメントコース）
- ・ リサーチクエスチョンや情報を分析する力を養う場面やシンキングツールを適切に使える場面を年間計画に効果的に配置する必要がある。（2年 マネジメントコース）